

## 大槻文彦主要参考文献

2017-08-26; 2019-01-17 改訂 後藤斉

- 阿曾沼要 2005 『大槻三賢人』高橋印刷.
- 伊沢修二 山住正己校注 1971 『洋楽事始 音楽取調成績申報書』(東洋文庫 188) 平凡社.
- 一関市博物館編 2000 『はるかなるヨーロッパ 蘭学者大槻玄沢の世界認識』一関市博物館.
- 一関市博物館編 2004 『大槻磐溪 東北を動かした右文左武の人』一関市博物館.
- 一関市博物館編 2007 『GENTAKU 近代科学の扉を開いた人』一関市博物館.
- 一関市博物館編 2011 『ことばの海 国語学者大槻文彦の足跡』一関市博物館.**
- 大飼守薫 1981 「辞書と国語教育 大槻文彦の隠れたる業績」『解釈』27:5, 58-62.
- 大飼守薫 1999 『近代辞書編纂史の基礎的研究 『大言海』への道』風間書房.
- 大飼守薫 2001-2003 「大槻文彦と国字改良運動 (1)~(2)」『文化と情報』3, 3-16; 『椋山学園大学文化情報 学部紀要』3, 175-183.
- 内田智子 2017 『『広日本文典』に見られる音声分析』『長崎国際大学論叢』17, 1-11.
- 宇野量介 1973 『明治初年の宮城教育』宝文堂.
- 宇野量介 1993 『新大棒録』仙台一高「じっかい」出版会.
- 大島英介 2008 『遂げずばやまじ 日本の近代化に尽くした大槻三賢人』岩手日報社.
- 木全清弘 1989 「万国史教科書の内容分析 (2)」『滋賀大学教育研究所紀要』23, 17-27.
- 木村紀夫 2018 『仙台藩の戊辰戦争 東北諸藩幕末戦記 増補決定版』荒蝦夷.
- 木村紀夫 2018 『仙台藩の戊辰戦争 幕末維新人物録 282 増補決定版』荒蝦夷.
- 倉島長正 2003 『日本語一〇〇年の鼓動 日本人なら知っておきたい国語辞典誕生のいきさつ』小学館.
- 倉島長正 2010 『国語辞書一〇〇年 日本語をつかまえようと苦闘した人々の物語』おうふう.
- 「言海」刊行百周年記念事業実行委員会編 1992 『大槻文彦 言海と一関』一関市教育委員会.
- 小岩弘明 1998 「大槻文彦における著述傾向の推移」『一関市博物館研究報告』1, 17-26.
- 小岩弘明 1999 「大槻家旧蔵資料考 一展覧会出品目録を中心として一」同 2, 35-43.
- 小岩弘明 2000 「大槻家の明治二年 一大槻磐溪入牢に際して一」同 3, 33-42.
- 小岩弘明 2001-2011 「大槻文彦「日本文典」立案過程の痕跡 (1)-(3)」同 4, 1-26; 8, 45-62; 14, 75-92.
- 小岩弘明 2004 『『言海』刊行遅延の謝辞と「ことばのうみのおくがき」について』同 7, 41-55.
- 小岩弘明 2008 「大槻文彦の英学修行と戊辰戦争 一その青年期を再検証する一」同 11, 41-60.
- 小岩弘明 2009 「大槻文彦起草「議案日本口語法」について 一『口語法』刊行に向けた活動の一端一」同 12, 49-64.
- 小岩弘明 2010 「国語調査委員会の活動を探る 一大槻文彦「国語調査委員日記」から一」同 13, 47-62.
- 小岩弘明 2012 「青年校長大槻文彦 一宮城師範学校創設のころ一」同 15, 65-76.
- 小岩弘明 2013 「大槻文彦「言海」宅下一件 一辞書編纂に寄せる思いと幻の草稿を追う一」同 16, 35-48.
- 小岩弘明 2014 「大槻文彦自筆履歴書 一大槻家寄贈資料から一」同 17, 51-62.
- 小岩弘明 2017 「大槻文彦の一関「帰省」一旅行記を読む一」同 20, 85-96.
- 小関三郎編 1938 『仙台先哲偉人録』仙台教育会.
- 後藤斉 2016 「西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考」『東北大学言語学論集』24, 1-14.
- 後藤斉 2019 「洋学者としての大槻文彦」浅岡善治編『ハイブリッドな文化』東北大学出版会, pp.75-119.**
- 小林清治 2015 『伊達騒動と原田甲斐』吉川弘文館.
- 今野真二 2013 『『言海』と明治の日本語』港の人.
- 今野真二 2014 『「言海」を読む ことばの海と明治の日本語』KADOKAWA.**

- 今野真二・小野春菜 2018 『言海の研究』武蔵野書院.
- 斉木美知世・鷺尾龍一 2012 『日本文法の系譜学 国語学史と言語学史の接点』開拓社.
- 斉木美知世・鷺尾龍一 2014 『国語学史の近代と現代 研究史の空白を埋める試み』開拓社.
- 佐々木慶市編 1956 『仙台一高六十年史』宮城県仙台第一高等学校同窓会.
- 佐藤良雄 1973 「大槻文彦と英文法」『英学史研究』6, 19-26.
- サンキュータツオ 2016 『学校では教えてくれない! 国語辞典の遊び方』角川文庫(さ-71).**
- 山東功 2002 『明治前期日本文典の研究』和泉書院.
- 昭和女子大学近代文学研究室 1968 「大槻文彦」『近代文学研究叢書』第28巻, 昭和女子大学, pp. 237-274.
- 杉沼修一編 1918 『仙台藩戊辰殉難者五十年弔祭誌』私家版.(『仙臺郷土研究』43:1, 2018.として復刻).
- 関戸明子 2018 「紀行文に描かれた近代の草津温泉」『群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編』67, 61-76.
- 高田宏 1978 『言葉の海へ』新潮社. (のち岩波書店, 1998; 洋泉社, 2007; 新潮文庫, 2018)**
- 竹田晃子 2016 「新村出自筆「東西語法境界線概略」の成立再考」『アルテス リベラリス』98, 129-145.
- 田澤耕 2014 『<辞書屋>列伝 言葉に憑かれた人びと』(中公新書 2251), 中央公論社.**
- 田中恵 1999 「大槻文彦の『言海』と地誌四著作 国家の輪郭形成をめぐる」『年報日本史叢』53-72.
- 田鍋桂子 2001 「『支那文典』から「語法指南」へ — 「六個地歩」における註釈を中心に」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』9:2, 13-22.
- 田鍋桂子 2002 「国立国会図書館蔵『東京須覧具』について」『日本語論叢』3, 25-36.
- 田鍋桂子 2005 「大槻文彦著『東京須覧具』と『日本辞書言海』」『早稲田日本語研究』14, 49-60.
- 田鍋桂子 2014 「国語調査委員会編纂『口語法』『口語法別記』の位置づけ — 編纂過程と大槻文彦 —」小林賢次・小林千草編『日本語史の新視点と現代日本語』勉誠出版. 94-111.
- 田鍋桂子 2015 「大槻文彦の標準語観」『明海大学外国語学部論集』27, 1-13.
- 永島道男 2017 『言葉の大海へ 『大言海』を愉しむ』文芸社.
- 長沼美香子 2017 『訳された近代 文部省『百科全書』の翻訳学』法政大学出版局.
- 永野賢 1991 『文法研究史と文法教育』明治書院.
- 服部隆 2017 『明治期における日本語文法研究史』ひつじ書房.
- 早川勇 2007 『ウェブスター辞書と明治の知識人』春風社.
- 古田東朔 1981 「大槻文彦の文法」『月刊言語』10:1, 4-9.
- 古田東朔 鈴木泰他編 2014 『東朔夜話 伝記と随筆』(近現代日本語生成史コレクション 6)くろしお出版.
- 宮城県公文書館編 2015 『近代のなかの伊達 歴史学者・大槻文彦と宮城県』宮城県公文書館.
- 宮城県第二女子高等学校編 2005 『二女高百年史』宮城県第二女子高等学校.
- 宮城県図書館編 1998 『講演会記録 宮城県図書館開館記念事業』宮城県図書館.
- 明治書院企画編集部編 1997 『日本語学者列伝』明治書院.
- 安田敏朗 2006 『辞書の政治学 ことばの規範とはなにか』平凡社.
- 安田敏朗 2018 『大槻文彦『言海』 辞書と日本の近代』慶應義塾大学出版会.
- 山口諤司 2016 『日本語を作った男 上田万年とその時代』集英社インターナショナル.
- 山下一郎 2007 『鷺の谷 根岸の里の覚え書き』富山房インターナショナル.
- 山田忠雄述 1981 『近代国語辞書の歩み その模倣と創意と 上』三省堂.
- 山田俊雄 1980 『図録 日本辞書 言海』大修館書店.
- 湯浅茂雄 1997 「『言海』と近世辞書」『国語学』188, 1-14.
- 湯浅茂雄 2016 「大槻文彦」『日本語学』35:4(特集 人物でたどる日本語学史), 88-91.
- 「大槻大矢両博士記念」『国語と国文学』5:7-8 (1928).
- 『大言海 文献集』富山房, 1932.